夕刊 臺灣日日新報 (第二版) (明治卅一年五月九日第三種郵便物認可) 昭和十七年四月八日 (水曜日)

全スマトラを戦果

蘭印軍總指揮官降伏

帝國陸軍赫々たる戰果

【東京發同盟至急報】大本營發表(七日正午)一、蘭印軍スマトラ總指揮官オビファーカー少將は三月二十七日クタラジャに於て帝國陸軍部隊に降伏せり、茲に赫々たる戰果を以て全スマトラを戰定せり

一、北部及び中部スマトラ方面にて捕獲せる俘虜左の如し

蘭印兵約一千、英國兵約九百、その他約一千二百、合計約三千百

右の內英國兵はシンガポールより乘船逃亡中船舶擊沈せられスマトラに漂着せるもの

佐以下三十名を含みあり

【註】オビファーカー少將は本年一月スマトラ總指揮官として派遣せられたるものなるが帝國陸軍部隊の上陸を知るや部下と共に山中に逃入せるものなり

印度本土初空襲

荒驚コカナダ港を爆撃

【リスボン七日發同盟】ロンドン來電によれば日本航空部隊は六日次のごとく發表した

【リスボン六日發同盟】ニューデリーA.P.發によれば印度東部は六日次のごとく發表した

日本海軍部隊はベンガル灣を突破し兩航空隊に攻撃を加へ、これは五日コロンボを爆撃したのと同じ部隊であつた DNB.通信バンコック發セイロン當局筋に有力筋よれば英側發表の如く

【マドラス州北部のコカナダ港を爆撃した】

【註】コカナダはマドラスの東方五百粁に位し人口五萬五千の都會で英領印度第二位の石油精製所の所在地である

ベンガル灣を奇襲

コロンボ爆撃・英衝撃

〝皇軍印度北進〟と競々

【リスボン六日發同盟】ニューデリーA.P.發によれば印度東部は六日次のごとく發表した

日本海軍部隊はベンガル灣を突破し兩航空隊に攻撃を加へ、これは五日コロンボを爆撃したのと同じ部隊であつた DNB.通信バンコック發セイロン當局筋に有力筋よれば英側發表の如く

一、英側が印度人の製薬協力に感謝ありと宣傳してゐるのはセイロン當局筋と同樣の意味を指すものである

一、セイロン島住民はこれその下のセイロン島において英領にしまりにセイロン島の住民製薬力を感じつつあるが如き感なる問題であつて英國に屬するものでないこと明白である DNB.通信バンコック發セイロン當局筋に有力筋よれば英側發表の如く

一、英側が印度人の製薬協力に感謝ありと宣傳してゐるのはセイロン當局筋と同樣の意味を指すものである

一、セイロン島住民はこれその下のセイロン島において英領にしまりにセイロン島の住民製薬力を感じつつあるが如き感なる問題であつて英國に屬するものでないこと明白である

【リスボン六日發同盟】ロンドン來電、日本海軍航空部隊のコロンボ爆撃は開戰以來大膽なるものであつてゐるがデリー・テレグラフ紙はこれに關聯し次の如く論じてゐる

ベンガル灣の戰略的地位は印度の南西部交通を遮斷してゐる點なるもので日本艦隊部隊はこの基地に對し反擊權と同樣の徹底的大打撃を與へんとしてゐるものである

デリー・メール紙 コロンボ襲撃は日本軍の對印民衆の宣傳である、日本軍がセイロン島を制壓すれば容々アラビア海に到達すること可能となりマドラス、カルカッタへの英交通を切斷すると共に國軍のコーカサスイラン方面への前進に拍車し日本軍の印度北進に脅威を與へるであらう

セイロン島出身者 英側逆宣傳を捕虜

【ベルリン六日發同盟】最近數週間に亘る英空軍の獨逸占領地域に對する空襲は一般的に見て英國の士氣を昂揚するに適當なる效果を收めたものと見做されてゐる

皇軍の勇戰を絶讃

樞軸國武官團の視察談

【○○基地六日發同盟】最終航空中の樞軸國武官團一行六名は去る二十八日午前十一時より○○基地において記者團と會見の左の如く語つた

伊武官ベルトニー大佐 日本軍はジャングル戰に主眼を置き機に乘じた旅行を見出して之を敢行、殊に世界陸上戰術史上に於ても稀に見る大膽な作戰であつて全く驚嘆に堪へない、日本軍は實に勇敢であり、且つ訓練が行き屆いてゐる、日本軍の勇戰振りは全く驚嘆に堪へない、日本軍は實に勇敢であり、且つ訓練が行き屆いてゐる、日本軍の勇戰振りは全く驚嘆に堪へない

獨武官クレツチメル大佐 われわれは日本軍の勇戰振りを見て日本軍の勇戰振りを見て日本軍の勇戰振りを見て日本軍の勇戰振りを見て

南方經營の構想

農本經濟南方に活用

臺灣は愈よ工業振興

上京の長谷川總督談

長谷川總督は愈よ今次大東亞戰爭の目的達成のために施政の重點を南方經營に置き南方資源の開發利用に關し農業部門を擔當することとなつたが、これに關し總督は次の如く語つた

南方經營の構想については、既に政府當局より發表されてゐる通りであるが、それについては臺灣の立場から見ても從來の農業中心の施政方針を變更して、南方經營に關し農業部門を擔當することとなつたが、これに關し總督は次の如く語つた

南方經營の構想については、既に政府當局より發表されてゐる通りであるが、それについては臺灣の立場から見ても從來の農業中心の施政方針を變更して、南方經營に關し農業部門を擔當することとなつたが、これに關し總督は次の如く語つた

長谷川總督八日入京

【東京發同盟】長谷川總督は八日午後一時二十分東京驛着の特急「富士」で入京、二十三日午後一時二十分東京驛發の特急「富士」で歸臺の豫定

翼協推薦略完了す

推薦總數四百六十七

【東京發同盟】翼賛選舉は六日午前十時より各府縣會場に於て一齊に投票を開始、三時に於て一日以來初めての翼賛選舉は滯りなく終了した

泰國慶祝使節團

福岡に到着、七日東上

【福岡發同盟】泰國慶祝使節團一行は六日午後二時福岡驛着、歩兵第二十四聯隊より出迎の三十一日以來初めての翼賛選舉は滯りなく終了した

米英油槽船擊沈

二百七十五萬餘噸

開戰以來獨海空軍の戰果

【ベルリン六日發同盟】ドイツ海軍總司令部發表(七日)一、ドイツ海軍潛水艦隊は開戰以來その戰果擴大に力を注いで來たるが、殊に本年に入つてからは六日午前DNB.通信を通じ大西洋において撃沈した油槽船は二百七十五萬噸以上に達しその內訳はガソリン運搬船四百十萬噸以上である、この數字は世界各國の石油產額の五分の一以上に當るものである

立候補七百を突破

推薦候補當選へ

翼協本格的の運動展開

【東京發同盟】翼賛選舉立候補受付は四日の朝日から出足が鈍る事なく、遂に六日は午後二時迄に一千百七十名を突破し、それから午後五時迄に一千百八十七名となつた、その內譯は新人一千二百十二名、現職は一百三十一名、元職は十四名、新人が多數を占めてゐるが、これは翼賛會の結成以來第一回の選擧であるから當然のことである

全印國民黨

英案に反對

【リスボン六日發同盟】ニューデリー來信によれば全印國民黨は六日英國の印度問題解決につきの如き聲明を發表、同黨による印度獨立の要求を表明した

英國案を基礎とする印度獨立の要求は全く不滿足なものであつてとうてい受諾することはできない

啓蒙運動指導と

取締を一段強化

【東京發同盟】翼賛選舉終了後三日目の六日立候補者出馬者の氏名を發表し出馬者の立候補取消と共に候補者立會の下に抽籤を行ひ、各候補者の選擧運動の取締を一段と強化することとなつたが今次翼賛選舉の特徴として從來指導の下に公明選擧の實を擧げ得たことは勿論であるが、今次翼賛選舉の一大國民運動の展開に當つては從來の選擧取締法規の下に於ては或る程度の選擧違反行爲は寧ろ當然視されてゐた點もあり、從つて今次翼賛選舉の取締

大東亞現地便り

タイ國の巻 (2)

日本の軍歌巷に氾濫

日本を知らうとする國民の意欲熾烈

【バンコツク七日發同盟】大東亞戰爭勃發以來緊密化された日本と我が同盟國の一國としてますます重要性を加へてゐる、昨年十二月泰國がタイ國に進駐するに際しタイ國民は日本軍隊に對して如何に親しみを感じてゐたかを知らなかつたのである

日本の實力認識

しかしながらマレー、ビルマの戰線から次々と傳へられる日本軍勝利の快報又は連日アメリカ東部沿岸、オーストラリア、蘭印方面の擊つべき敵果が伝はりバンコック・タイ國民は日本軍隊の實力に對して驚異の眼を見張つたのである

立上る産業戰士

日本と共同の歩調をとつて英米に對する日本國民の意欲の熾烈なことは實に驚くべきものがある、日本の軍歌が如何に氾濫してゐるかを證明するものとして次の事實を擧げてゐる

一、日本語學校に入學する學生數が激増し、現在では一萬數千名に達してゐること

二、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

三、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

四、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

五、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

六、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

七、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

八、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

九、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

十、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

力強い心構へ

駐日泰國大使館への國民的感謝の念を表して日本語學校へ入學する學生數が激増してゐるのである、中には日本語學校卒業後日本軍隊に入隊するものさへ出てゐる、これらの事實は日本軍隊の實力に對する泰國民の信頼感を如實に物語つてゐるものである

日本の實力認識

しかしながらマレー、ビルマの戰線から次々と傳へられる日本軍勝利の快報又は連日アメリカ東部沿岸、オーストラリア、蘭印方面の擊つべき敵果が伝はりバンコック・タイ國民は日本軍隊の實力に對して驚異の眼を見張つたのである

立上る産業戰士

日本と共同の歩調をとつて英米に對する日本國民の意欲の熾烈なことは實に驚くべきものがある、日本の軍歌が如何に氾濫してゐるかを證明するものとして次の事實を擧げてゐるのである

一、日本語學校に入學する學生數が激増し、現在では一萬數千名に達してゐること

二、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

三、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

四、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

五、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

六、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

七、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

八、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

九、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

十、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

力強い心構へ

駐日泰國大使館への國民的感謝の念を表して日本語學校へ入學する學生數が激増してゐるのである、中には日本語學校卒業後日本軍隊に入隊するものさへ出てゐる、これらの事實は日本軍隊の實力に對する泰國民の信頼感を如實に物語つてゐるものである

日本の實力認識

しかしながらマレー、ビルマの戰線から次々と傳へられる日本軍勝利の快報又は連日アメリカ東部沿岸、オーストラリア、蘭印方面の擊つべき敵果が伝はりバンコック・タイ國民は日本軍隊の實力に對して驚異の眼を見張つたのである

立上る産業戰士

日本と共同の歩調をとつて英米に對する日本國民の意欲の熾烈なことは實に驚くべきものがある、日本の軍歌が如何に氾濫してゐるかを證明するものとして次の事實を擧げてゐるのである

一、日本語學校に入學する學生數が激増し、現在では一萬數千名に達してゐること

二、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

三、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

四、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

五、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

六、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

七、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

八、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

九、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

十、日本語學校の教師の需要が激増してゐること

力強い心構へ

駐日泰國大使館への國民的感謝の念を表して日本語學校へ入學する學生數が激増してゐるのである、中には日本語學校卒業後日本軍隊に入隊するものさへ出てゐる、これらの事實は日本軍隊の實力に對する泰國民の信頼感を如實に物語つてゐるものである

バンコツクメナム河口の有名寺院

無言の勇士軍馬に感謝

けふ島都〝愛馬〟一色

大東亞戰下に迎ふ〝愛馬の日〟

〝馬と兵隊〟〝銃後と兵隊〟我々は折に觸れ時に應じ機に從ひ常に馬と馬の活躍する場面が目につつる、物言はぬだけにその働しがいやが上にもいちらしくまた限りない感謝を捧げるのである、〝愛馬の日〟を前に控へた今年の〝愛馬の日〟は大東亞戰下に於ける一入深くけふを迎へたのである

この日　臨時に陸軍北部軍管區司令部を臨時軍馬補充部を先頭に軍馬を愛撫し感謝の意を表すべく各地で催される筈であるが豐島ヶ岡御墓所では午前十時から陸軍大將東久邇宮殿下を始め陸軍省、參謀本部、近衛師團、第一師團、第二師團、第三師團、第四師團、第五師團、第六師團、第七師團、第八師團、第九師團、第十師團、第十一師團、第十二師團、第十三師團、第十四師團、第十五師團、第十六師團、第十七師團、第十八師團、第十九師團、第二十師團、第二十一師團、第二十二師團、第二十三師團、第二十四師團、第二十五師團、第二十六師團、第二十七師團、第二十八師團、第二十九師團、第三十師團、第三十一師團、第三十二師團、第三十三師團、第三十四師團、第三十五師團、第三十六師團、第三十七師團、第三十八師團、第三十九師團、第四十師團、第四十一師團、第四十二師團、第四十三師團、第四十四師團、第四十五師團、第四十六師團、第四十七師團、第四十八師團、第四十九師團、第五十師團、第五十一師團、第五十二師團、第五十三師團、第五十四師團、第五十五師團、第五十六師團、第五十七師團、第五十八師團、第五十九師團、第六十師團、第六十一師團、第六十二師團、第六十三師團、第六十四師團、第六十五師團、第六十六師團、第六十七師團、第六十八師團、第六十九師團、第七十師團、第七十一師團、第七十二師團、第七十三師團、第七十四師團、第七十五師團、第七十六師團、第七十七師團、第七十八師團、第七十九師團、第八十師團、第八十一師團、第八十二師團、第八十三師團、第八十四師團、第八十五師團、第八十六師團、第八十七師團、第八十八師團、第八十九師團、第九十師團、第九十一師團、第九十二師團、第九十三師團、第九十四師團、第九十五師團、第九十六師團、第九十七師團、第九十八師團、第九十九師團、第百師團、第百一師團、第百二師團、第百三師團、第百四師團、第百五師團、第百六師團、第百七師團、第百八師團、第百九師團、第百十師團、第百十一師團、第百十二師團、第百十三師團、第百十四師團、第百十五師團、第百十六師團、第百十七師團、第百十八師團、第百十九師團、第百二十師團、第百二十一師團、第百二十二師團、第百二十三師團、第百二十四師團、第百二十五師團、第百二十六師團、第百二十七師團、第百二十八師團、第百二十九師團、第百三十師團、第百三十一師團、第百三十二師團、第百三十三師團、第百三十四師團、第百三十五師團、第百三十六師團、第百三十七師團、第百三十八師團、第百三十九師團、第百四十師團、第百四十一師團、第百四十二師團、第百四十三師團、第百四十四師團、第百四十五師團、第百四十六師團、第百四十七師團、第百四十八師團、第百四十九師團、第百五十師團、第百五十一師團、第百五十二師團、第百五十三師團、第百五十四師團、第百五十五師團、第百五十六師團、第百五十七師團、第百五十八師團、第百五十九師團、第百六十師團、第百六十一師團、第百六十二師團、第百六十三師團、第百六十四師團、第百六十五師團、第百六十六師團、第百六十七師團、第百六十八師團、第百六十九師團、第百七十師團、第百七十一師團、第百七十二師團、第百七十三師團、第百七十四師團、第百七十五師團、第百七十六師團、第百七十七師團、第百七十八師團、第百七十九師團、第百八十師團、第百八十一師團、第百八十二師團、第百八十三師團、第百八十四師團、第百八十五師團、第百八十六師團、第百八十七師團、第百八十八師團、第百八十九師團、第百九十師團、第百九十一師團、第百九十二師團、第百九十三師團、第百九十四師團、第百九十五師團、第百九十六師團、第百九十七師團、第百九十八師團、第百九十九師團、第二百師團、第二百一師團、第二百二師團、第二百三師團、第二百四師團、第二百五師團、第二百六師團、第二百七師團、第二百八師團、第二百九師團、第二百十師團、第二百十一師團、第二百十二師團、第二百十三師團、第二百十四師團、第二百十五師團、第二百十六師團、第二百十七師團、第二百十八師團、第二百十九師團、第二百二十師團、第二百二十一師團、第二百二十二師團、第二百二十三師團、第二百二十四師團、第二百二十五師團、第二百二十六師團、第二百二十七師團、第二百二十八師團、第二百二十九師團、第二百三十師團、第二百三十一師團、第二百三十二師團、第二百三十三師團、第二百三十四師團、第二百三十五師團、第二百三十六師團、第二百三十七師團、第二百三十八師團、第二百三十九師團、第二百四十師團、第二百四十一師團、第二百四十二師團、第二百四十三師團、第二百四十四師團、第二百四十五師團、第二百四十六師團、第二百四十七師團、第二百四十八師團、第二百四十九師團、第二百五十師團、第二百五十一師團、第二百五十二師團、第二百五十三師團、第二百五十四師團、第二百五十五師團、第二百五十六師團、第二百五十七師團、第二百五十八師團、第二百五十九師團、第二百六十師團、第二百六十一師團、第二百六十二師團、第二百六十三師團、第二百六十四師團、第二百六十五師團、第二百六十六師團、第二百六十七師團、第二百六十八師團、第二百六十九師團、第二百七十師團、第二百七十一師團、第二百七十二師團、第二百七十三師團、第二百七十四師團、第二百七十五師團、第二百七十六師團、第二百七十七師團、第二百七十八師團、第二百七十九師團、第二百八十師團、第二百八十一師團、第二百八十二師團、第二百八十三師團、第二百八十四師團、第二百八十五師團、第二百八十六師團、第二百八十七師團、第二百八十八師團、第二百八十九師團、第二百九十師團、第二百九十一師團、第二百九十二師團、第二百九十三師團、第二百九十四師團、第二百九十五師團、第二百九十六師團、第二百九十七師團、第二百九十八師團、第二百九十九師團、第三百師團、第三百一師團、第三百二師團、第三百三師團、第三百四師團、第三百五師團、第三百六師團、第三百七師團、第三百八師團、第三百九師團、第三百十師團、第三百十一師團、第三百十二師團、第三百十三師團、第三百十四師團、第三百十五師團、第三百十六師團、第三百十七師團、第三百十八師團、第三百十九師團、第三百二十師團、第三百二十一師團、第三百二十二師團、第三百二十三師團、第三百二十四師團、第三百二十五師團、第三百二十六師團、第三百二十七師團、第三百二十八師團、第三百二十九師團、第三百三十師團、第三百三十一師團、第三百三十二師團、第三百三十三師團、第三百三十四師團、第三百三十五師團、第三百三十六師團、第三百三十七師團、第三百三十八師團、第三百三十九師團、第三百四十師團、第三百四十一師團、第三百四十二師團、第三百四十三師團、第三百四十四師團、第三百四十五師團、第三百四十六師團、第三百四十七師團、第三百四十八師團、第三百四十九師團、第三百五十師團、第三百五十一師團、第三百五十二師團、第三百五十三師團、第三百五十四師團、第三百五十五師團、第三百五十六師團、第三百五十七師團、第三百五十八師團、第三百五十九師團、第三百六十師團、第三百六十一師團、第三百六十二師團、第三百六十三師團、第三百六十四師團、第三百六十五師團、第三百六十六師團、第三百六十七師團、第三百六十八師團、第三百六十九師團、第三百七十師團、第三百七十一師團、第三百七十二師團、第三百七十三師團、第三百七十四師團、第三百七十五師團、第三百七十六師團、第三百七十七師團、第三百七十八師團、第三百七十九師團、第三百八十師團、第三百八十一師團、第三百八十二師團、第三百八十三師團、第三百八十四師團、第三百八十五師團、第三百八十六師團、第三百八十七師團、第三百八十八師團、第三百八十九師團、第三百九十師團、第三百九十一師團、第三百九十二師團、第三百九十三師團、第三百九十四師團、第三百九十五師團、第三百九十六師團、第三百九十七師團、第三百九十八師團、第三百九十九師團、第四百師團、第四百一師團、第四百二師團、第四百三師團、第四百四師團、第四百五師團、第四百六師團、第四百七師團、第四百八師團、第四百九師團、第四百十師團、第四百十一師團、第四百十二師團、第四百十三師團、第四百十四師團、第四百十五師團、第四百十六師團、第四百十七師團、第四百十八師團、第四百十九師團、第四百二十師團、第四百二十一師團、第四百二十二師團、第四百二十三師團、第四百二十四師團、第四百二十五師團、第四百二十六師團、第四百二十七師團、第四百二十八師團、第四百二十九師團、第四百三十師團、第四百三十一師團、第四百三十二師團、第四百三十三師團、第四百三十四師團、第四百三十五師團、第四百三十六師團、第四百三十七師團、第四百三十八師團、第四百三十九師團、第四百四十師團、第四百四十一師團、第四百四十二師團、第四百四十三師團、第四百四十四師團、第四百四十五師團、第四百四十六師團、第四百四十七師團、第四百四十八師團、第四百四十九師團、第四百五十師團、第四百五十一師團、第四百五十二師團、第四百五十三師團、第四百五十四師團、第四百五十五師團、第四百五十六師團、第四百五十七師團、第四百五十八師團、第四百五十九師團、第四百六十師團、第四百六十一師團、第四百六十二師團、第四百六十三師團、第四百六十四師團、第四百六十五師團、第四百六十六師團、第四百六十七師團、第四百六十八師團、第四百六十九師團、第四百七十師團、第四百七十一師團、第四百七十二師團、第四百七十三師團、第四百七十四師團、第四百七十五師團、第四百七十六師團、第四百七十七師團、第四百七十八師團、第四百七十九師團、第四百八十師團、第四百八十一師團、第四百八十二師團、第四百八十三師團、第四百八十四師團、第四百八十五師團、第四百八十六師團、第四百八十七師團、第四百八十八師團、第四百八十九師團、第四百九十師團、第四百九十一師團、第四百九十二師團、第四百九十三師團、第四百九十四師團、第四百九十五師團、第四百九十六師團、第四百九十七師團、第四百九十八師團、第四百九十九師團、第五百師團、第五百一師團、第五百二師團、第五百三師團、第五百四師團、第五百五師團、第五百六師團、第五百七師團、第五百八師團、第五百九師團、第五百十師團、第五百十一師團、第五百十二師團、第五百十三師團、第五百十四師團、第五百十五師團、第五百十六師團、第五百十七師團、第五百十八師團、第五百十九師團、第五百二十師團、第五百二十一師團、第五百二十二師團、第五百二十三師團、第五百二十四師團、第五百二十五師團、第五百二十六師團、第五百二十七師團、第五百二十八師團、第五百二十九師團、第五百三十師團、第五百三十一師團、第五百三十二師團、第五百三十三師團、第五百三十四師團、第五百三十五師團、第五百三十六師團、第五百三十七師團、第五百三十八師團、第五百三十九師團、第五百四十師團、第五百四十一師團、第五百四十二師團、第五百四十三師團、第五百四十四師團、第五百四十五師團、第五百四十六師團、第五百四十七師團、第五百四十八師團、第五百四十九師團、第五百五十師團、第五百五十一師團、第五百五十二師團、第五百五十三師團、第五百五十四師團、第五百五十五師團、第五百五十六師團、第五百五十七師團、第五百五十八師團、第五百五十九師團、第五百六十師團、第五百六十一師團、第五百六十二師團、第五百六十三師團、第五百六十四師團、第五百六十五師團、第五百六十六師團、第五百六十七師團、第五百六十八師團、第五百六十九師團、第五百七十師團、第五百七十一師團、第五百七十二師團、第五百七十三師團、第五百七十四師團、第五百七十五師團、第五百七十六師團、第五百七十七師團、第五百七十八師團、第五百七十九師團、第五百八十師團、第五百八十一師團、第五百八十二師團、第五百八十三師團、第五百八十四師團、第五百八十五師團、第五百八十六師團、第五百八十七師團、第五百八十八師團、第五百八十九師團、第五百九十師團、第五百九十一師團、第五百九十二師團、第五百九十三師團、第五百九十四師團、第五百九十五師團、第五百九十六師團、第五百九十七師團、第五百九十八師團、第五百九十九師團、第六百師團、第六百一師團、第六百二師團、第六百三師團、第六百四師團、第六百五師團、第六百六師團、第六百七師團、第六百八師團、第六百九師團、第六百十師團、第六百十一師團、第六百十二師團、第六百十三師團、第六百十四師團、第六百十五師團、第六百十六師團、第六百十七師團、第六百十八師團、第六百十九師團、第六百二十師團、第六百二十一師團、第六百二十二師團、第六百二十三師團、第六百二十四師團、第六百二十五師團、第六百二十六師團、第六百二十七師團、第六百二十八師團、第六百二十九師團、第六百三十師團、第六百三十一師團、第六百三十二師團、第六百三十三師團、第六百三十四師團、第六百三十五師團、第六百三十六師團、第六百三十七師團、第六百三十八師團、第六百三十九師團、第六百四十師團、第六百四十一師團、第六百四十二師團、第六百四十三師團、第六百四十四師團、第六百四十五師團、第六百四十六師團、第六百四十七師團、第六百四十八師團、第六百四十九師團、第六百五十師團、第六百五十一師團、第六百五十二師團、第六百五十三師團、第六百五十四師團、第六百五十五師團、第六百五十六師團、第六百五十七師團、第六百五十八師團、第六百五十九師團、第六百六十師團、第六百六十一師團、第六百六十二師團、第六百六十三師團、第六百六十四師團、第六百六十五師團、第六百六十六師團、第六百六十七師團、第六百六十八師團、第六百六十九師團、第六百七十師團、第六百七十一師團、第六百七十二師團、第六百七十三師團、第六百七十四師團、第六百七十五師團、第六百七十六師團、第六百七十七師團、第六百七十八師團、第六百七十九師團、第六百八十師團、第六百八十一師團、第六百八十二師團、第六百八十三師團、第六百八十四師團、第六百八十五師團、第六百八十六師團、第六百八十七師團、第六百八十八師團、第六百八十九師團、第六百九十師團、第六百九十一師團、第六百九十二師團、第六百九十三師團、第六百九十四師團、第六百九十五師團、第六百九十六師團、第六百九十七師團、第六百九十八師團、第六百九十九師團、第七百師團、第七百一師團、第七百二師團、第七百三師團、第七百四師團、第七百五師團、第七百六師團、第七百七師團、第七百八師團、第七百九師團、第七百十師團、第七百十一師團、第七百十二師團、第七百十三師團、第七百十四師團、第七百十五師團、第七百十六師團、第七百十七師團、第七百十八師團、第七百十九師團、第七百二十師團、第七百二十一師團、第七百二十二師團、第七百二十三師團、第七百二十四師團、第七百二十五師團、第七百二十六師團、第七百二十七師團、第七百二十八師團、第七百二十九師團、第七百三十師團、第七百三十一師團、第七百三十二師團、第七百三十三師團、第七百三十四師團、第七百三十五師團、第七百三十六師團、第七百三十七師團、第七百三十八師團、第七百三十九師團、第七百四十師團、第七百四十一師團、第七百四十二師團、第七百四十三師團、第七百四十四師團、第七百四十五師團、第七百四十六師團、第七百四十七師團、第七百四十八師團、第七百四十九師團、第七百五十師團、第七百五十一師團、第七百五十二師團、第七百五十三師團、第七百五十四師團、第七百五十五師團、第七百五十六師團、第七百五十七師團、第七百五十八師團、第七百五十九師團、第七百六十師團、第七百六十一師團、第七百六十二師團、第七百六十三師團、第七百六十四師團、第七百六十五師團、第七百六十六師團、第七百六十七師團、第七百六十八師團、第七百六十九師團、第七百七十師團、第七百七十一師團、第七百七十二師團、第七百七十三師團、第七百七十四師團、第七百七十五師團、第七百七十六師團、第七百七十七師團、第七百七十八師團、第七百七十九師團、第七百八十師團、第七百八十一師團、第七百八十二師團、第七百八十三師團、第七百八十四師團、第七百八十五師團、第七百八十六師團、第七百八十七師團、第七百八十八師團、第七百八十九師團、第七百九十師團、第七百九十一師團、第七百九十二師團、第七百九十三師團、第七百九十四師團、第七百九十五師團、第七百九十六師團、第七百九十七師團、第七百九十八師團、第七百九十九師團、第八百師團、第八百一師團、第八百二師團、第八百三師團、第八百四師團、第八百五師團、第八百六師團、第八百七師團、第八百八師團、第八百九師團、第八百十師團、第八百十一師團、第八百十二師團、第八百十三師團、第八百十四師團、第八百十五師團、第八百十六師團、第八百十七師團、第八百十八師團、第八百十九師團、第八百二十師團、第八百二十一師團、第八百二十二師團、第八百二十三師團、第八百二十四師團、第八百二十五師團、第八百二十六師團、第八百二十七師團、第八百二十八師團、第八百二十九師團、第八百三十師團、第八百三十一師團、第八百三十二師團、第八百三十三師團、第八百三十四師團、第八百三十五師團、第八百三十六師團、第八百三十七師團、第八百三十八師團、第八百三十九師團、第八百四十師團、第八百四十一師團、第八百四十二師團、第八百四十三師團、第八百四十四師團、第八百四十五師團、第八百四十六師團、第八百四十七師團、第八百四十八師團、第八百四十九師團、第八百五十師團、第八百五十一師團、第八百五十二師團、第八百五十三師團、第八百五十四師團、第八百五十五師團、第八百五十六師團、第八百五十七師團、第八百五十八師團、第八百五十九師團、第八百六十師團、第八百六十一師團、第八百六十二師團、第八百六十三師團、第八百六十四師團、第八百六十五師團、第八百六十六師團、第八百六十七師團、第八百六十八師團、第八百六十九師團、第八百七十師團、第八百七十一師團、第八百七十二師團、第八百七十三師團、第八百七十四師團、第八百七十五師團、第八百七十六師團、第八百七十七師團、第八百七十八師團、第八百七十九師團、第八百八十師團、第八百八十一師團、第八百八十二師團、第八百八十三師團、第八百八十四師團、第八百八十五師團、第八百八十六師團、第八百八十七師團、第八百八十八師團、第八百八十九師團、第八百九十師團、第八百九十一師團、第八百九十二師團、第八百九十三師團、第八百九十四師團、第八百九十五師團、第八百九十六師團、第八百九十七師團、第八百九十八師團、第八百九十九師團、第九百師團、第九百一師團、第九百二師團、第九百三師團、第九百四師團、第九百五師團、第九百六師團、第九百七師團、第九百八師團、第九百九師團、第九百十師團、第九百十一師團、第九百十二師團、第九百十三師團、第九百十四師團、第九百十五師團、第九百十六師團、第九百十七師團、第九百十八師團、第九百十九師團、第九百二十師團、第九百二十一師團、第九百二十二師團、第九百二十三師團、第九百二十四師團、第九百二十五師團、第九百二十六師團、第九百二十七師團、第九百二十八師團、第九百二十九師團、第九百三十師團、第九百三十一師團、第九百三十二師團、第九百三十三師團、第九百三十四師團、第九百三十五師團、第九百三十六師團、第九百三十七師團、第九百三十八師團、第九百三十九師團、第九百四十師團、第九百四十一師團、第九百四十二師團、第九百四十三師團、第九百四十四師團、第九百四十五師團、第九百四十六師團、第九百四十七師團、第九百四十八師團、第九百四十九師團、第九百五十師團、第九百五十一師團、第九百五十二師團、第九百五十三師團、第九百五十四師團、第九百五十五師團、第九百五十六師團、第九百五十七師團、第九百五十八師團、第九百五十九師團、第九百六十師團、第九百六十一師團、第九百六十二師團、第九百六十三師團、第九百六十四師團、第九百六十五師團、第九百六十六師團、第九百六十七師團、第九百六十八師團、第九百六十九師團、第九百七十師團、第九百七十一師團、第九百七十二師團、第九百七十三師團、第九百七十四師團、第九百七十五師團、第九百七十六師團、第九百七十七師團、第九百七十八師團、第九百七十九師團、第九百八十師團、第九百八十一師團、第九百八十二師團、第九百八十三師團、第九百八十四師團、第九百八十五師團、第九百八十六師團、第九百八十七師團、第九百八十八師團、第九百八十九師團、第九百九十師團、第九百九十一師團、第九百九十二師團、第九百九十三師團、第九百九十四師團、第九百九十五師團、第九百九十六師團、第九百九十七師團、第九百九十八師團、第九百九十九師團、第千師團、第千一師團、第千二師團、第千三師團、第千四師團、第千五師團、第千六師團、第千七師團、第千八師團、第千九師團、第千十師團、第千十一師團、第千十二師團、第千十三師團、第千十四師團、第千十五師團、第千十六師團、第千十七師團、第千十八師團、第千十九師團、第千二十師團、第千二十一師團、第千二十二師團、第千二十三師團、第千二十四師團、第千二十五師團、第千二十六師團、第千二十七師團、第千二十八師團、第千二十九師團、第千三十師團、第千三十一師團、第千三十二師團、第千三十三師團、第千三十四師團、第千三十五師團、第千三十六師團、第千三十七師團、第千三十八師團、第千三十九師團、第千四十師團、第千四十一師團、第千四十二師團、第千四十三師團、第千四十四師團、第千四十五師團、第千四十六師團、第千四十七師團、第千四十八師團、第千四十九師團、第千五十師團、第千五十一師團、第千五十二師團、第千五十三師團、第千五十四師團、第千五十五師團、第千五十六師團、第千五十七師團、第千五十八師團、第千五十九師團、第千六十師團、第千六十一師團、第千六十二師團、第千六十三師團、第千六十四師團、第千六十五師團、第千六十六師團、第千六十七師團、第千六十八師團、第千六十九師團、第千七十師團、第千七十一師團、第千七十二師團、第千七十三師團、第千七十四師團、第千七十五師團、第千七十六師團、第千七十七師團、第千七十八師團、第千七十九師團、第千八十師團、第千八十一師團、第千八十二師團、第千八十三師團、第千八十四師團、第千八十五師團、第千八十六師團、第千八十七師團、第千八十八師團、第千八十九師團、第千九十師團、第千九十一師團、第千九十二師團、第千九十三師團、第千九十四師團、第千九十五師團、第千九十六師團、第千九十七師團、第千九十八師團、第千九十九師團、第千百師團、第千百一師團、第千百二師團、第千百三師團、第千百四師團、第千百五師團、第千百六師團、第千百七師團、第千百八師團、第千百九師團、第千百十師團、第千百十一師團、第千百十二師團、第千百十三師團、第千百十四師團、第千百十五師團、第千百十六師團、第千百十七師團、第千百十八師團、第千百十九師團、第千百二十師團、第千百二十一師團、第千百二十二師團、第千百二十三師團、第千百二十四師團、第千百二十五師團、第千百二十六師團、第千百二十七師團、第千百二十八師團、第千百二十九師團、第千百三十師團、第千百三十一師團、第千百三十二師團、第千百三十三師團、第千百三十四師團、第千百三十五師團、第千百三十六師團、第千百三十七師團、第千百三十八師團、第千百三十九師團、第千百四十師團、第千百四十一師團、第千百四十二師團、第千百四十三師團、第千百四十四師團、第千百四十五師團、第千百四十六師團、第千百四十七師團、第千百四十八師團、第千百四十九師團、第千百五十師團、第千百五十一師團、第千百五十二師團、第千百五十三師團、第千百五十四師團、第千百五十五師團、第千百五十六師團、第千百五十七師團、第千百五十八師團、第千百五十九師團、第千百六十師團、第千百六十一師團、第千百六十二師團、第千百六十三師團、第千百六十四師團、第千百六十五師團、第千百六十六師團、第千百六十七師團、第千百六十八師團、第千百六十九師團、第千百七十師團、第千百七十一師團、第千百七十二師團、第千百七十三師團、第千百七十四師團、第千百七十五師團、第千百七十六師團、第千百七十七師團、第千百七十八師團、第千百七十九師團、第千百八十師團、第千百八十一師團、第千百八十二師團、第千百八十三師團、第千百八十四師團、第千百八十五師團、第千百八十六師團、第千百八十七師團、第千百八十八師團、第千百八十九師團、第千百九十師團、第千百九十一師團、第千百九十二師團、第千百九十三師團、第千百九十四師團、第千百九十五師團、第千百九十六師團、第千百九十七師團、第千百九十八師團、第千百九十九師團、第千二百師團、第千二百一師團、第千二百二師團、第千二百三師團、第千二百四師團、第千二百五師團、第千二百六師團、第千二百七師團、第千二百八師團、第千二百九師團、第千二百十師團、第千二百十一師團、第千二百十二師團、第千二百十三師團、第千二百十四師團、第千二百十五師團、第千二百十六師團、第千二百十七師團、第千二百十八師團、第千二百十九師團、第千二百二十師團、第千二百二十一師團、第千二百二十二師團、第千二百二十三師團、第千二百二十四師團、第千二百二十五師團、第千二百二十六師團、第千二百二十七師團、第千二百二十八師團、第千二百二十九師團、第千二百三十師團、第千二百三十一師團、第千二百三十二師團、第千二百三十三師團、第千二百三十四師團、第千二百三十五師團、第千二百三十六師團、第千二百三十七師團、第千二百三十八師團、第千二百三十九師團、第千二百四十師團、第千二百四十一師團、第千二百四十二師團、第千二百四十三師團、第千二百四十四師團、第千二百四十五師團、第千二百四十六師團、第千二百四十七師團、第千二百四十八師團、第千二百四十九師團、第千二百五十師團、第千二百五十一師團、第千二百五十二師團、第千二百五十三師團、第千二百五十四師團、第千二百五十五師團、第千二百五十六師團、第千二百五十七師團、第千二百五十八師團、第千二百五十九師團、第千二百六十師團、第千二百六十一師團、第千二百六十二師團、第千二百六十三師團、第千二百六十四師團、第千二百六十五師團、第千二百六十六師團、第千二百六十七師團、第千二百六十八師團、第千二百六十九師團、第千二百七十師團、第千二百七十一師團、第千二百七十二師團、第千二百七十三師團、第千二百七十四師團、第千二百七十五師團、第千二百七十六師團、第千二百七十七師團、第千二百七十八師團、第千二百七十九師團、第千二百八十師團、第千二百八十一師團、第千二百八十二師團、第千二百八十三師團、第千二百八十四師團、第千二百八十五師團、第千二百八十六師團、第千二百八十七師團、第千二百八十八師團、第千二百八十九師團、第千二百九十師團、第千二百九十一師團、第千二百九十二師團、第千二百九十三師團、第千二百九十四師團、第千二百九十五師團、第千二百九十六師團、第千二百九十七師團、第千二百九十八師團、第千二百九十九師團、第千三百師團、第千三百一師團、第千三百二師團、第千三百三師團、第千三百四師團、第千三百五師團、第千三百六師團、第千三百七師團、第千三百八師團、第千三百九師團、第千三百十師團、第千三百十一師團、第千三百十二師團、第千三百十三師團、第千三百十四師團、第千三百十五師團、第千三百十六師團、第千三百十七師團、第千三百十八師團、第千三百十九師團、第千三百二十師團、第千三百二十一師團、第千三百二十二師團、第千三百二十三師團、第千三百二十四師團、第千三百二十五師團、第千三百二十六師團、第千三百二十七師團、第千三百二十八師團、第千三百二十九師團、第千三百三十師團、第千三百三十一師團、第千三百三十二師團、第千三百三十三師團、第千三百三十四師團、第千三百三十五師團、第千三百三十六師團、第千三百三十七師團、第千三百三十八師團、第千三百三十九師團、第千三百四十師團、第千三百四十一師團、第千三百四十二師團、第千三百四十三師團、第千三百四十四師團、第千三百四十五師團、第千三百四十六師團、第千三百四十七師團、第千三百四十八師團、第千三百四十九師團、第千三百五十師團、第千三百五十一師團、第千三百五十二師團、第千三百五十三師團、第千三百五十四師團、第千三百五十五師團、第千三百五十六師團、第千三百五十七師團、第千三百五十八師團、第千三百五十九師團、第千三百六十師團、第千三百六十一師團、第千三百六十二師團、第千三百六十三師團、第千三百六十四師團、第千三百六十五師團、第千三百六十六師團、第千三百六十七師團、第千三百六十八師團、第千三百六十九師團、第千三百七十師團、第千三百七十一師團、第千三百七十二師團、第千三百七十三師團、第千三百七十四師團、第千三百七十五師團、第千三百七十六師團、第千三百七十七師團、第千三百七十八師團、第千三百七十九師團、第千三百八十師團、第千三百八十一師團、第千三百八十二師團、第千三百八十三師團、第千三百八十四師團、第千三百八十五師團、第千三百八十六師團、第千三百八十七師團、第千三百八十八師團、第千三百八十九師團、第千三百九十師團、第千三百九十一師團、第千三百九十二師團、第千三百九十三師團、第千三百九十四師團、第千三百九十五師團、第千三百九十六師團、第千三百九十七師團、第千三百九十八師團、第千三百九十九師團、第千四百師團、第千四百一師團、第千四百二師團、第千四百三師團、第千四百四師團、第千四百五師團、第千四百六師團、第千四百七師團、第千四百八師團、第千四百九師團、第千四百十師團、第千四百十一師團、第千四百十二師團、第千四百十三師團、第千四百十四師團、第千四百十五師團、第千四百十六師團、第千四百十七師團、第千四百十八師團、第千四百十九師團、第千四百二十師團、第千四百二十一師團、第千四百二十二師團、第千四百二十三師團、第千四百二十四師團、第千四百二十五師團、第千四百二十六師團、第千四百二十七師團、第千四百二十八師團、第千四百二十九師團、第千四百三十師團、第千四百三十一師團、第千四百三十二師團、第千四百三十三師團、第千四百三十四師團、第千四百三十五師團、第千四百三十六師團、第千四百三十七師團、第千四百三十八師團、第千四百三十九師團、第千四百四十師團、第千四百四十一師團、第千四百四十二師團、第千四百四十三師團、第千四百四十四師團、第千四百四十五師團、第千四百四十六師團、第千四百四十七師團、第千四百四十八師團、第千四百四十九師團、第千四百五十師團、第千四百五十一師團、第千四百五十二師團、第千四百五十三師團、第千四百五十四師團、第千四百五十五師團、第千四百五十六師團、第千四百五十七師團、第千四百五十八師團、第千四百五十九師團、第千四百六十師團、第千四百六十一師團、第千四百六十二師團、第千四百六十三師團、第千四百六十四師團、第千四百六十五師團、第千四百六十六師團、第千四百六十七師團、第千四百六十八師團、第千四百六十九師團、第千四百七十師團、第千四百七十一師團、第千四百七十二師團、第千四百七十三師團、第千四百七十四師團、第千四百七十五師團、第千四百七十六師團、第千四百七十七師團、第千四百七十八師團、第千四百七十九師團、第千四百八十師團、第千四百八十一師團、第千四百八十二師團、第千四百八十三師團、第千四百八十四師團、第千四百八十五師團、第千四百八十六師團、第千四百八十七師團、第千四百八十八師團、第千四百八十九師團、第千四百九十師團、第千四百九十一師團、第千四百九十二師團、第千四百九十三師團、第千四百九十四師團、第千四百九十五師團、第千四百九十六師團、第千四百九十七師團、第千四百九十八師團、第千四百九十九師團、第千五百師團、第千五百一師團、第千五百二師團、第千五百三師團、第千五百四師團、第千五百五師團、第千五百六師團、第千五百七師團、第千五百八師團、第千五百九師團、第千五百十師團、第千五百十一師團、第千五百十二師團、第千五百十三師團、第千五百十四師團、第千五百十五師團、第千五百十六師團、第千五百十七師團、第千五百十八師團、第千五百十九師團、第千五百二十師團、第千五百二十一師團、第千五百二十二師團、第千五百二十三師團、第千五百二十四師團、第千五百二十五師團、第千五百二十六師團、第千五百二十七師團、第千五百二十八師團、第千五百二十九師團、第千五百三十師團、第千五百三十一師團、第千五百三十二師團、第千五百三十三師團、第千五百三十四師團、第千五百三十五師團、第千五百三十六師團、第千五百三十七師團、第千五百三十八師團、第千五百三十九師團、第千五百四十師團、第千五百四十一師團、第千五百四十二師團、第千五百四十三師團、第千五百四十四師團、第千五百四十五師團、第千五百四十六師團、第千五百四十七師團、第千五百四十八師團、第千五百四十九師團、第千五百五十師團、第千五百五十一師團、第千五百五十二師團、第千五百五十三師團、第千五百五十四師團、第千五百五十五師團、第千五百五十六師團、第千五百五十七師團、第千五百五十八師團、第千五百五十九師團、第千五百六十師團、第千五百六十一師團、第千五百六十二師團、第千五百六十三師團、第千五百六十四師團、第千五百六十五師團、第千五百六十六師團、第千五百六十七師團、第千五百六十八師團、第千五百六十九師團、第千五百七十師團、第千五百七十一師團、第千五百七十二師團、第千五百七十三師團、第千五百七十四師團、第千五百七十五師團、第千五百七十六師團、第千五百七十七師團、第千五百七十八師團、第千五百七十九師團、第千五百八十師團、第千五百八十一師團、第千五百八十二師團、第千五百八十三師團、第千五百八十四師團、第千五百八十五師團、第千五百八十六師團、第千五百八十

臺灣日日新報　昭和十七年（一九四二）八月八日（水曜日）　第一万五千百十七號　A　（一）
（第二版）　（郵便物認可）　（昭和十一年九月九日第三種郵便物認可）

臺灣日日新報

本日夕刊共六頁

けふ第四回大詔奉戴日

詔書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本帝國天皇ハ昭ニ忠誠勇武ナル汝有衆ニ示ス

朕茲ニ米國及英國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戰ニ從事シ朕カ百僚有司ハ國精職務ヲ率行シ朕カ衆庶ハ各〻其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力ヲ擧ケテ征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナカラムコトヲ期セヨ

抑〻東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄與スルハ不顯ナル皇祖考不承ナル皇考ノ作述セル遺猷ニシテ朕カ拳々措カサル所而シテ列國トノ交誼ヲ篤クシ萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ之亦帝國カ常ニ國交ノ要義ト爲ス所ナリ今ヤ不幸ニシテ米英兩國ト釁端ヲ開クニ至ル洵ニ已ムヲ得サルモノアリ皆朕カ志ニアラス

トシ曩ニ國民政府ニ更新セラルルヤ帝國ハ之ト善隣ノ誼ヲ結ヒ相提携スルニ至レルモ重慶ニ殘存スル政權ハ米英ノ庇蔭ヲ恃ミテ兄弟尙未タ牆ニ相鬩クヲ悛メス米英兩國ハ殘存政權ヲ支援シテ東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ美名ニ匿レテ東洋制覇ノ非望ヲ逞ウセムトスルニ至レリ

帝國ハ之ト共ニ大東亞ノ安定ヲ確保スルノ大義ニ則リ帝國ノ生存ト光榮トヲ保全セムコトヲ期ス

御名御璽

昭和十六年十二月八日

各國務大臣副署

泰國慶祝使節　先發隨員東上

【曼谷七日發同盟】六日當地に到着した泰國慶祝使節先發隨員ピヤニット氏一行九名は七日午前七時十七分發列車にて二十四日ジヤムピーを出發ここに向ふ

臺灣タイン油廠　依拔ビオスゼリー　台北榕町本店

皇軍の底知れぬ威力を痛感した

杉山參謀總長前線視察談

【東京發同盟】杉山參謀總長は第二回目の戰地視察を終へ七日午後零時二十二分海路より歸京した

今回の戰地視察は出發に當つて述べた通り第一線の將兵を激勵するとともに作戰の實況を視察するにあつたが

その實績の詳細については既にその都度報道された通りであるが歸京後の中外記者團との會見に於ける杉山參謀總長の談話は次の如くである

堅持

…してをり、能力發揮に…

視察

…各々國境線の最大…

…は相當の犧牲を拂つたものの復讐には勇み出る努力を續け遂次我果を擧げつつある、敵逃のごとく今回前線各方面において敵なきため最も…

…に於ける戰果の詳細については既にその都度報道された通りであるが歸京後の中外記者團との會見に於ける杉山參謀總長の談話は次の如くである

…

…

…

社說

第四回大詔奉戴日を迎ふ

「米英撃滅」による宣戦布告の詔書を奉戴してより四ケ月一あの一瞬時、國民の感激を湧らし、米英帝國打ちのめすがの聖ひを立てしめた開戦十六年十二月八日の感激を憶ふとき、勝日は迫いてゆくが如きの快感さへ覚ゆるのである。聖ひは益々加重の負担と困苦欠乏とを強ひるものであるが、國民は決して屈せず、寧ろ開戦時の感激を新たにし、大詔奉戴の日を迎へんとしてゐるのである。

顧みれば開戦以来、我が陸海軍將兵の忠勇無双なる奮戦は、よく皇軍の神武の精華を發揮し、緒戦の赫々たる戦果は、全世界をして驚嘆せしめたのである。

即ち開戦劈頭、ハワイ方面の敵艦隊に対する痛撃は、米國太平洋艦隊の主力を殆んど潰滅し、マレー沖海戦は、英國東洋艦隊の誇る戦艦プリンス・オブ・ウェールズ及レパルスを撃沈し、更に蘭印攻略戦は、蘭印軍の抵抗を徹底的に破摧して、蘭印全域を我が手中に収めたのである。

又陸上作戦に於ても、マレー半島の攻略戦は、僅か五十五日間にして、英國東洋軍の最大拠点シンガポールを陥落せしめ、ビルマ作戦は、ビルマ全域を我が手中に収めたのである。

更に比島攻略戦は、マニラ、バターン半島、コレヒドール島を攻略し、蘭印攻略戦は、ジャワ、スマトラ、ボルネオ、セレベス、チモール等の要地を攻略し、蘭印軍の抵抗を完全に粉砕したのである。

かくて我が軍は、開戦以来僅か四ケ月の間に、大東亜の要衝を殆んど全部攻略し、大東亜戦争の第一段階の作戦を完了したのである。

此の赫々たる戦果は、我が陸海軍將兵の忠勇無双なる奮戦の賜であることは勿論であるが、又一面に於ては、我が國民が、一億一心、火の如く燃え上つた大東亜戦争の目的に対する絶大なる信念と、皇軍將兵の忠勇無双なる奮戦に対する絶大なる感謝の念とが、渾然として一体となつたことに依るものであることを忘れてはならない。

我が國民は、此の絶大なる信念と感謝の念とを以て、大詔奉戴の日を迎へ、更に一層の奮起を以て、大東亜戦争の完遂に邁進しなければならない。

印度洋制覇とコロンボ攻撃

印度洋上日獨伊の握手成らん

一

世界の海洋は、三角形の大洋の突角に位するインド洋の支配の如何によつて、新秩序、勝敗の帰趨に大なる影響を及ぼすことは、カルカッタ、アデンの英印連絡を断つことを高唱するとともに、印度の独立を援助することは、この際に英國の印度統治を覆滅し、印度洋制覇を確立し、英國の印度の植民地を奪取するの意味であるから、英國としては、絶対に之を許すことは出來ないのである。

二

印度洋制覇の有する最大の重要性であることは、ふまでもない。だが、この重要性を認識して、永久に英帝國主義と訣別しようとするには、印度自身の自覚と決意とが、絶対的条件である。この意味に於ては、印度の現在の地位は、英國の植民地として、英帝國主義と運命を共にするか、或は英帝國主義と訣別して、自主的に新しい道を歩むかの、二つの岐路に立つものである。

印度洋制覇の重要性は、日本にとつても、又ドイツにとつても、同じく重要である。日本は、既に印度洋の西北部に、その勢力を扶植しつつあるが、ドイツは、ソ聯との戦争が、ソ聯の潰滅によつて終結すれば、ペルシャ、アフガニスタンを経て、印度洋に進出し、英國の印度支配を覆滅せんとするであらう。

三

以上述べたところは、セイロン島を中心とする印度洋の戦略的重要性であるが、しかし今後の戦局が如何に展開するか、即ち枢軸側が如何にしてこの戦略的要地を攻略するかといふことは、更に重大な問題である。

セイロン島攻略の第一歩として、英國東洋艦隊の喪失に引き続き、英國の印度洋制覇の喪失に拍車をかけんとする日獨伊の握手成らんか。

港灣運送業を統制

戰時下不動の體制確立

きのふ關係者會合規程案を作成

港灣運送業の再編成については、既報の如く、商工省貿易局において、目下鋭意研究中であるが、これが具体的方策としては、港灣運送業者を以て、港灣運送株式會社を設立し、これに港灣運送業を統合するか、或は港灣運送業者を以て、港灣運送組合を組織し、これに港灣運送業を統合するかの、二つの方法が考へられてゐる。

前者は、港灣運送業者の出資を以て、港灣運送株式會社を設立し、これに港灣運送業を統合するものであるが、後者は、港灣運送業者を以て、港灣運送組合を組織し、これに港灣運送業を統合するものである。

港灣運送業者の再編成については、既報の如く、商工省貿易局において、目下鋭意研究中であるが、これが具体的方策としては、港灣運送業者を以て、港灣運送組合を組織し、これに港灣運送業を統合するか、或は港灣運送業者を以て、港灣運送株式會社を設立

けふ・第四同大詔奉戴日

故大將の遺品蒐め 史蹟乃木館を開館

臺灣軍司令部 國民精神修養の資に公開

臺北市水町の「乃木館」は臺北陸軍將兵の精神修養の資に供する爲め、臺灣軍司令部の手により、今回新たに史蹟乃木館として開館されることゝなつた、開館式は來る十日午前十時より擧行される筈である、

軍人の模範

乃木將軍は明治維新の大業を翼贊し奉つた數多の勳功ある將星の一人であるが、殊に日露戰役に於ける旅順攻圍軍司令官としての赫々たる武勳は、我が國民の等しく感激して已まざる所であり、又軍人の模範として仰ぎ奉つて遺憾なきものがある、

軍人、殊に將兵の精神修養の資に供せられてゐるが、今回臺灣軍司令部の手により、乃木將軍の遺品を蒐集し、臺北市水町の「乃木館」に於て一般公開されることゝなつたのである、

乃木將軍の遺品は、從來臺北陸軍

米英の狙ふ軍事基地

ニューカレドニア概貌

日本との關係深く鑛山資源に富む

開戰以來メキに移けた、一八六〇年以來佛國の領となり二百五十人の囚人が送られ一八九八年（明治三十一年）までに一萬五六百人の囚人が送られ主として政治上の事件で流刑された囚人で、ほとんどが佛蘭西本國の人とアルジェリヤ人とよばれるアラビヤ人とであつた。

現在メキに於ける人口は白人が一萬八千人、土人が二萬七千人、その他の有色人種が二千人、合計四萬七千人である。

日本との關係は一八八七年（明治二十年）に佛領インドシナ會社の世話でル・ニッケル會社の鑛山開發のために渡航したのが始まりで、その後日本人の移住者が增加し、一時は三百人もあつたが、それ以前、邦人の進出はあつた。

日本とニューカレドニアの關係は平和裏に於ては、ニッケル鑛の輸入と、日本製品の輸出とであつたが、今や日本の軍艦は南洋の要衝として重視したのがニューカレドニアである。

ニューカレドニアの面積は、一萬六千五百平方キロ、人口は五〇―五五パーセントを土人が占めてゐる。

ニューカレドニアの主要都市はヌメアで、人口は一萬二千人、ヌメアの港を出て、ニューカレドニアの東海岸に沿ひ北上すると、ヌメアから一四〇キロ、ムエルア島の南端ヤテに達する。

ヤテからは西北に一八五キロ、ニューカレドニアの東海岸に沿ひ北上すると、ポンデリエ島の南端ウアラに達する。

ウアラ